

平成31年度 山形美術館事業計画書

2019年4月1日

-企画展-

事業の名称	事業の内容	期間		備考
		入場料	料	
野口久光 シネマ・グラフィックス	<p>野口久光(1909-1994、宇都宮市生まれ)は、ヨーロッパ映画を中心に配給していた映画配給会社・東和商事(のちの東宝東和)で、およそ30年間に1,000枚を超える映画ポスターを描いた。野口の映画ポスターは、作品の雰囲気と内容を豊かに表現した「一枚の絵画」としての魅力に溢れている。著名な映画監督フランソワ・トリュフォーが野口の日本版ポスターに感激した逸話や、世界最大級の映画博物館であるパリのシネマテーク・フランスーズで2014年に野口の回顧展を開催、多数の作品を収蔵するなど世界的にも高い評価を得ている。</p> <p>また野口はジャズやミュージカルの評論家としても活躍し、デューク・エリントンやカウント・ベイシーはじめ、ジャズの巨匠たちとの親交もあった。1983年には、日米の音楽文化の橋渡しへの貢献により、ニューオリンズ名誉市民にも選ばれた。</p> <p>本展では、野口久光が手がけた映画ポスターやその原画、映画スターやジャズプレイヤーのポートレート、デザインを手がけた書籍・雑誌・レコードジャケットなど、約400点に及ぶ作品・資料を展示。時代を経てもその輝きを失わない野口久光のグラフィック・デザインの世界を紹介する。</p>	4月6日(土) - 5月12日(日)		
		一般 900円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜と5月5日は 中学生以下無料 ※「もっとしりたい山美の 魅力 Part1」と共通料金		
国立トレチャコフ 美術館所蔵 ロマンティック・ ロシア	<p>19世紀後半以降、帝国の崩壊や革命によって激動の時代を迎えたロシアを舞台に、社会の現実をリアリズム様式によってとらえ、人間の内面や現実の真の姿を描き出した芸術家たちがいた。当時のアカデミー派に対抗し、その展開期の中心を担った移動展覧会協会の作家たちはイワン・クラムスコイ、ワシーリー・ペロフ、イリヤ・レーピンらがいる。</p> <p>またニコライ・クズネツォフ、コンスタンチン・コロヴェインらの懐古的なロマンティズムに溢れた作品にも、祖国に対する深い愛情をみることができる。</p> <p>国立トレチャコフ美術館は、ロシアの実業家であるパーヴェル・トレチャコフとセルゲイ・トレチャコフ兄弟による蒐集品を基に設立された。12世紀ロシアのイコン美術から20世紀の風景画、肖像画、風俗画に至るまで、20万点を超える膨大なロシア美術のコレクションを保管し、モスクワの国立プーシキン美術館、サンクトペテルブルグの国立エルミタージュ美術館とともに、ロシアの3大美術館のひとつとして知られている。</p> <p>本展は、ロシア美術の殿堂・国立トレチャコフ美術館が所蔵する豊富なコレクションより、19世紀後半から20世紀初頭の激動のロシアを代表するイワン・シーシキン、イワン・クラムスコイ、イリヤ・レーピン、イサーク・レヴィタンらの風景画、風俗画、人物画、静物画、72点を展示。当時のロシアの画家がロシアの広大な自然や対象に見いだした世界を紹介する。</p>	7月19日(金) - 8月25日(日)		
		一般・大学生 1,300円 小中高生 500円 ※土曜は中学生以下無料		

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
再興第104回 院展山形展	<p>1898年、日本美術院は岡倉天心、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らによって、新しい時代の美術を樹立する目的で創立された。1914年に院展を再興し第1回展を開催して以来、本年で104回展を迎える。近代日本画の歴史と伝統を築いてきた同展には福井爽人、田淵俊夫、那波多目功一ら、現代の日本画壇を代表する作家が属している。また、福王寺一彦、大矢紀、川瀬磨土ら山形が生んだ院展作家の流れも脈々と受け継がれており、本県とは縁の深い展覧会である。</p> <p>本展は東京展の地方巡回展として、院展同人の大作と受賞作に加え、同人・番場三雄ら東北芸術工科大学の教員、卒業生・在学生らの作品など約90点を展示し、日本画の現在と新たな歩みの方向性を紹介する。</p>	11月7日(木) - 11月19日(火)	
		一般 1,000円 高大生 700円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料	

-3県展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
第74回 山形県総合美術展	<p>山形県の美術振興と美術家のレベル向上を目指して毎年開催している県内最大の公募展。日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で作品を一般公募し、わが国を代表する作家を各部門の審査員として招き、入選作を決定し、優秀作を表彰する。これらの作品に審査員特別出品、委嘱、無鑑査などの作品をあわせ500余点を展示公開する予定。併せて第61回こども県展を開催し、幼稚園から中学生までの児童生徒の絵を展示する。</p>	8月31日(土) - 9月16日(月・祝)	
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第44回 山形県総合書道展	<p>山形県内および出身者の書家、書道愛好家から広く作品を公募し、中央でも活躍している県書壇の重鎮による合同審査を行う。昨年は600点を越える応募があり、その中から厳選して優秀作をおよび入選作を決定した。上位入賞者の中には本展を足がかりに中央展で活躍する者もあり、県書道界の現時点の力量と将来への展望を示す展覧会となっている。</p>	9月21日(土) - 9月29日(日)	
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	
第54回 山形県写真展	<p>山形県内の写真愛好家に作品発表の場を提供するとともに、相互の交流と写真技術のレベルアップを図る公募展。県内各地から広く公募された作品を、日本を代表する著名な写真家に審査を依頼して入選を決めたうえ、その中から入賞、準入賞、努力賞を選んで表彰する。近年、公民館や生涯教育のなかで写真教室が人気を集めるなど、カメラを手にする人が増えており、本年も2,500点を超す応募作品が予想される。</p>	2月20日(木) - 3月22日(日)	
		一般 600円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料	

-収蔵品によるテーマ展-

事業の名称	事業の内容	期間		備考
		入	場料	
もっとしりたい 山美の魅力 長谷川コレクション × 服部コレクション Part 1& Part 2	本館の約 2000 件のコレクションのなかでも、1968 年以降、紅花商人の流れを汲む(山)長谷川家および(谷)長谷川家から寄贈を受けた、東洋および日本美術、絵画・書・工芸作品 292 点による「長谷川コレクション」は、当館を代表するコレクションとなっている。 また 1985 年の新館竣工に合わせ収集された、ルオー、ピカソ、シャガールの作品ほか戦後のフランス絵画 60 点と彫刻 5 点は、初代館長服部敬雄の業績を讃え「服部コレクション」として親しまれている。これら両コレクションは、当館の歩みを示すものとしても重要である。 本展覧会は両コレクションで構成し、山形美術館の魅力を Part1 と Part2 の二回に分けて紹介するものである。	Part1:4月6日(土)- 5月12日(日)/ Part2:12月5日(木)- 1月26日(日)		
		Part 1 一 般 900円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜と5月5日は中学生以下無料 ※「野口久光」と共通料金	Part2 一 般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※「北斎づくし」と共通料金	
吉野石膏 コレクション 〈ダフニスとクロエ〉 とミロの版画	当館収蔵品のなかで、吉野石膏株式会社と吉野石膏美術振興財団より当館に寄託されている絵画コレクションは、印象派を中心に、ポスト印象派、エコール・ド・パリまで、きら星のごとく優品が揃っている。そのなかからマルク・シャガールのリトグラフ〈ダフニスとクロエ〉と、ジョアン・ミロの版画を中心に紹介し、20世紀フランス絵画の魅力を紹介する。	6月4日(火) - 6月23日(日)		
		一 般 700円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※「山形の彫刻」と共通料金		
山形の彫刻	当館収蔵の彫刻作品より、新海竹太郎・竹蔵、平柳田中、佐藤朝山(玄々)といった近代彫刻界を牽引した作家の作品をはじめ、桜井祐一、鈴木実、吾妻謙治郎など山形県出身の近代彫刻家の作品を展示し、日本および山形県の「彫刻の近代」を概観する。	6月4日(火) - 6月23日(日)		
		一 般 700円 高大生 300円 小中生 200円 ※土曜は中学生以下無料 ※「吉野石膏コレクション」と共通料金		
北斎づくし 漫画から富士まで	江戸時代後期の絵師・葛飾北斎(1760~1849)。約 70 年にわたる画業のなかで、卓越した画技をつくして森羅万象を描き、海外でも高い評価を受けている。なかでもよく知られた作品は、絵手本として発行し、風景、動植物、人物、風俗、妖怪などを描いた『北斎漫画』(1814-187 年)、そして日本を代表する山、「富士」を描いた『富嶽三十六景』(1831 頃)と『富嶽百景』(1836 以降)だろう。 この展覧会では 1980 年半ば以降に当館に寄託されたコレクションより、これら人気のシリーズから抜粋した作品を紹介する。	12月5日(木) - 1月26日(日)		
		一 般 800円 高大生 600円 小中生 400円 ※土曜は中学生以下無料 ※「もっとしりたい山美の魅力 Part2」と共通料金		

-収蔵品展-

事業の名称	事業の内容	期間	備考
		入場料	
収蔵品展	常設展 「巨匠の広場」/「吉野石膏コレクション-珠玉のフランス近代絵画」(8月6日(火) -10月20日(日)、2月-)/「新海竹太郎・竹蔵彫刻展示室」/「長谷川コレクション記念展示室」/「彫刻の小部屋」	年間通し	
		一般 600円 高大生 300円 小中生 100円 ※収蔵品展によっては料金の変更あり ※土曜は中学生以下無料	